

ボーダレス・アートミュージアム NO-MA ニューズレター

New!!

NO-MAニュースレターが
「野間の間」として生まれ変わりました!

展覧会レポート

Topic of NO-MA

ABC Column

地域インタビュー

鰯万里絵展

岩手県の山口少年のインタビュー

アール・フリュットを巡るコラム VOL.1

あのひとの近江八幡スタイル 尾賀商店 野垣さん



鈴万里絵展
るるりいり
縷々累々、紙の上の私の風景
2011年6月18日(土)～8月21日(日)
ボーダレス・アートミュージアム
NO-MA (旧野間邸)
監修:保坂健二郎
(東京国立近代美術館 研究員)
【主催】
ボーダレス・アートミュージアム NO-MA
社会福祉法人 滋賀県社会福祉事業団
【後援】
NPO法人はれたりくもつたり
【協力】
近江八幡観光物産協会、特定非営利活動法人しみんくし滋賀、八幡酒蔵工房

1979年長野県に生まれた。当初は、挿絵風のイラストを描いていたが、2007年ごろから、現在見られるような作品を制作しはじめた。自身の心の中にある衝動に対して、包み隠さず向き合い描く彼女の作品は、2010年パリで開催された「アール・ブリュット・ジャポネ」展においてもヨーロッパの観客の多くを魅了した。

彼女は、紙とマーカーペンというごくシンプルで身近な画材を用い、乳房、鍼、性器など大胆とも言えるモチーフを描く。またそれらの間を埋め尽くすように、微細なドットで構成してゆき、それらは、まるで目の中で蠢くような効果を生み出して、観る者の心を激しく揺さぶってゆく。多方面から注目されたこの企画は、彼女によるこれまでの表現活動を括的な形で体感できる、日本で最初の大きな個展となつた。



『ニンゲンセイナイニンゲン』 2010年制作 紙に油性ペン

展覧会レポート

Exhibition Report

文:横井悠 (鈴万里絵展担当)



◆鈴万里絵さんによるトークイベント(夕暮れNO-MA)が行われた。
2011.8.5

鈴万里絵(すずきまりえ)は1979年長野県に生まれた。当初は、挿絵風のイラストを描いていたが、2007年ごろから、現在見られるような作品を制作しはじめた。自身の心の中にある衝動に対して、包み隠さず向き合い描く彼女の作品は、2010年パリで開催された「アール・ブリュット・ジャポネ」展においてもヨーロッパの観客の多くを魅了した。

彼女は、紙とマーカーペンといふごくシンプルで身近な画材を用い、乳房、鍼、性器など大胆とも言えるモチーフを描く。またそれらの間を埋め尽くすように、微細なドットで構成してゆき、それらは、まるで目の中で蠢くような効果を生み出して、観る者の心を激しく揺さぶってゆく。多方面から注目されたこの企画は、彼女によるこれまでの表現活動を括的な形で体感できる、日本で最初の大きな個展となつた。

づくと、全体の何を(乳房、鍼、性器)描いたかよりもどのような線や丸でつくられているかに興味が出てきた」…、本展の意図は観ていただいた方々の多くの感想が物語っていた。実際の作品に触れることでこそ感じられるエネルギーを会場全体で体感していただける、そんな展覧会となつた。

こっくりとうなずいていた。2階の展示も見て1階に戻った時には1時間半が経過していた。

作品を鑑賞する目はどのようにして養われたのだろう。そもそも彼自身、絵を描くことや美術の時間は好きなのだろうか。

—美術の時間は好きです。絵を描くのは、実物を見ながら描くのが好きです。絵を描くより、ものを作ることが小さい頃から好きでした。

美術館にもよく行くのだろうか。一行ったことのある美術館は、十和田市現代美術館だけです。すべてがすごかったです。他には「きらら」です。彼が言う「きらら」とは、岩手で毎年2月に開かれている知的障害

のある人たちを中心とした公募展「いわて・きららアート・コレクション」のことである。この展覧会を楽しみに見に行っているそうだ。

鑑賞後、実際の作品を見た感想を聞いてみた。

—すごくデザインがいいと思いました。それと、ボールペンの作品と、ペンの作品があつて、その違いも見られて良かったです。

今回、山口少年の鑑賞に立ち会い、とてもフラットに作品と向き合っている印象を受けると同時に、「ものをつくる」人に対する尊敬の念がひしひしと伝わってきた。



翌日、山口少年は野球少年らしく高校野球を観に甲子園へ向かっていった。

一僕、今この展覧会に行っておかないと、大人になってから後悔しそうな気がする。普段、滅多に自分の要求を表すことはないという1人の少年が、1000km離れた岩手からNO-MAまでやって来た。

山口秀君は、岩手の県北に位置する一戸町に暮らす中学3年生。「純朴」という言葉がよく似合う野球少年だ。今回彼は、鈴万里絵展を見るという目的のために、母親と2人、遠路滋賀を訪れた。

山口少年が鈴作品と出会ったのは、昨年放送された「日曜美術館」だそうだ。アール・ブリュット・ジャポネ展が特集されたその回は、他の出展作家の作品も多く紹介された。

—鈴万里絵さんの絵が、まず目にありました。とにかくすごいと思いました。展覧会があると聞いて、ぜひ実物を見てみたいと思いました。

—すごい。ここ、塗っているだけでなく、中にまた細かい模

様がある… NO-MAに入り、鈴作品とご対面。母親に話しかけるとも、独り言ともつかない調子で絵の感想が漏れ出る。さらに何枚か続けて見ていくうちに笑顔が大きくなる。

—なんで、何種類もの違うハサミが描いてあるんだろう… 鈴作品の代表的なモチーフの1つにハサミがあるが、彼の言葉を基に改めて絵を見ると、たしかに和バサミ、図工バサミ、裁ちバサミと様々な種類のハサミが描かれている。柄の図柄が様々あることも興味深いようだ。母親曰く、彼は無類の文房具好きでもあるそうだ。行きつ戻りつ、時間をかけて鑑賞する。

—ボールペンの絵の時は、点々の部分がほとんどない… 嬉しそうに、しかし決してはしゃぐことなく自分の気づきを言葉にする。一緒に見ていた母親が「おっぱいとか性器とともに描かれているけど、全然いやらしさを感じない作品ですね」と話す脇で、彼も

ノマ Topic of NO-MA トピ

岩手県の山口少年のインタビュー

ぼくを虜にした絵 鈴万里絵の世界

文:田端一恵
(アール・ブリュットを巡るトークシリーズ担当)

アール・ブリュットを巡る ABC Column VOL.1

私があなたによって
いかに変えられたかを
伝えること

斎藤環さんの講演より



アール・ブリュットを巡る
トークシリーズ vol.1
ゲスト: 斎藤環(精神科医)
日時: 2011年7月9日(土) 14:30~16:30
会場: ヴォーリズ平和礼拝堂
(近江兄弟社学園本館5F)

文: アサダワタル
アール・ブリュットを巡るトークシリーズ
ディレクター

7月9日に開催されたトークシリーズ第2弾。アール・ブリュット(以下「AB」と略記)という概念が生まれた歴史的経緯、定義付けをはじめ、AB作品の海外との現状比較、AB作品と関わる上での基本的な心構えについてなど、幅広くお話を伺った。僕がとりわけ重要な点は、ABにおける批評についての彼の考え方だ。彼は以前からAB作品においては「批評ではなく、関係せよ」と説いてきた。そしてその作品と関係することにより「『私』というプログラムが書き換えられるリスクを受け入れる覚悟が必要」とも。

ちなみに僕は、美術分野と福祉・医療分野との狭間で浮遊するABという不思議な存在を、まだ見ぬ他者に伝えることを命題に、編集者によるポジションを担つて、作家たちの「作品」と彼ら彼らの「生活」という二つの軸が交わることとは一体どういうことか、この数年考え続けている。そんな中、斎藤氏が発した「『私』というプログラムの書き換え」問題を考えるう

ちに、僕は突如として政治社会学者の栗原彬氏の「存在の現れ」という言葉を思い出した。

彼の著作では、あらゆる政治的、経済的、社会的、文化的なシステムから解き放たれた一人一人の人間の矜持を現す運動、すなわち「存在の現れ」が語られている。このことに意識的になる過程で、あらゆる問題における当事者と非当事者、加害者と被害者の関係性が相互転倒をおこしてゆく。その時はじめて、他者の気持ちや意思を無闇に代弁することについてふと立ち止まる。

築150年の古民家を活用した
Shop&Gallery「尾賀商店」
ふわりと切り盛りする影の立役者に
お店のこと、NO-MAのこと、
そして、まちのことをうかがった

編: 西川賢司(NO-MA地域交流担当)

尾賀商店を始めたのは2007年11月。この場所はもともと父親の実家で、私の叔父の家。戦前までは砂糖の卸をやっていて、戦後は履物の卸をやっていました。20年ぐらい前には商売もやめて、叔母が1人で住んでいました。私は別の場所で専業主婦をしてましたが、この家を譲ってもらうことになり、維持していくための方策を探ったのです。

最初はお店をするなんてまったく考えていませんでしたが、自分でするよりも誰かがするのを手助けしようと思い、何人かの人に声をかけ始めたんです。一番最初に反応してくださった人が、銅で照明を作っている作家さんとはんこ職人さんで、個展や作品販売などのアイデアが生まれました。喫茶とともにギャラリーもある。この店が文化的な要素を持ち得たのは、こういった作家さん達との出会いが大きかったです。知り合いが知り合いを呼びながら、現在はハンコと書のショップ、ギャラリー、鉄の工房、野菜と古代米のごはんやさん、貸しスペースの5店舗に至っています。続けていくうちに徐々に尾賀商店のイメージのようなものが培われていき、なんとかいい感じで続けていますね。

滋賀県近江八幡市永原町中12
☎&FAX 0748(32)5567
Open 11~18時/木・金休
<http://oga-showten.com/>



尾賀商店
野垣洋子氏

地域インタビュー
Glocalization Local interview

お店をしていると、何が嬉しいかって、これまで絶対に会わなかつたであろう人たちと出会うことができるんですよ。そして色々お話をすると中で、「素敵な場所ですね」って褒めていただけたり。私が気をつけていることといえば、自分を主張しすぎず、集まってくれる人たちが自由に思うようにやってもらうことです。

子どもの頃からずっと知っているこの家。私はこの家がこれまで残ってきたという事実にとても惹かれていて、だからこれからもこの家を何かしらの方法で残していくたい。住みながら残すのもいいけど、世代の変化を受け入れながら、こういったお店という形でもこの家の遺思や歴史を受け継げると思っています。そういうえば、NO-MAも元々は野間さんの家ですよね。実は私、あそこに幼少時代住んでいたことがあ

るんです。それが今は美術館。2004年にNO-MAがオープンした時は、「自分が生まれ育ったところに美術館?」って正直驚きましたね(笑)。私はNO-MAが古い家としての様子を残している感じがとても好きです。特に2階のライブラリーの間など、居心地がいいですよね。私は昔から知らない人の家に入るのが大好きで、NO-MAは堂々と人の家に入っていく感覚がとても嬉しい。家的な空間って、「ここにどんな人が、どんな暮らしをしていたのだろう?」って、想像するだけでとてもワクワクするんです。

近江八幡のまちの空気をもっと感じてもらえるような宿泊施設が、この界隈にできるといいなと思っています。このまちの空気に馴染みながら、こういった活動を自然な形でこれからもやっていきたいです。

子ども時代の野垣さん一家
(NO-MA玄関前にて)



が観客の心に響いたのではないか。
斎藤氏が発した「『私』というプログラムの書き換え」問題を考えるう

静な講演の中にみなぎる熱い訴え
が観客の心に響いたのではないか。
斎藤氏が発した「『私』というプログラムの書き換え」問題を考えるう

**ボーダレス・アートミュージアムNO-MA秋の企画展
フィギュアたちの人生**

2011年9月3日(土)～11月13日(日) 月曜休館 (月曜が祝祭日の場合は翌日休館)

¥一般300(250)円・高大生250(200)円・中学生以下無料 ※()内は20名以上の团体料金
① 11:00～17:00 ※9月17日(土)・18日(日)18:00～21:00 第14回八幡堀まつりのため夜間無料特別開館
※11月12日(土)・13日(日)「関西文化の日」のため無料開館

主催：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA・社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団
後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会
協力：海洋堂フィギュアミュージアム黒壁 龍遊館、(株)海洋堂、地域生活支援センターふあっと
(社福)大木会もみじ寮・あさみ寮、(社福)しがらき会信楽青年寮、(社)日本精神科看護技術協会
NPO法人ウォーリス建築保存再生運動一粒の会、アトリエひこうきくも
(社)近江八幡觀光物産協会、NPO法人みんふくし滋賀、八幡酒蔵工房

企画展関連イベント情報**「八幡堀まつり de フィギュアファクトリー」**

八幡堀まつりに合わせて、NO-MAの軒下と旧八幡郵便局にフィギュアファクトリーが同時出現！海洋堂の未彩色フィギュアにアクリル絵の具を自由に塗って自分だけのオリジナルフィギュアを作ります。完成したフィギュアは、持ち帰ってもよし！NO-MAに展示してもよし！

2011年9月17日(土)・18日(日) 18:00～20:00

[縁側NO-MA編]
ボーダレス・アートミュージアムNO-MA前庭
[旧八幡郵便局編] 旧八幡郵便局
(近江八幡市仲屋町中8 ※NO-MAより徒歩約10分)
¥無料(予約不要)

**コドモ☆ワークショップ
「自分だけのフィギュアをつくろう！」**

「フィギュアたちの人生」展をみんなで鑑賞したあと、自分だけのフィギュアを作ります。海洋堂の未彩色フィギュアにも自分だけの色でペイントできるよ！ペイントしたフィギュアはお持ち帰りOK！もしかしたら展示されるかも！？(プログラム:13時～展覧会鑑賞@NO-MA⇒移動(徒歩約10分)⇒15時～フィギュア作り@旧八幡郵便局)

① 2011年10月10日(月・祝) 13:00～16:30

② 2011年11月3日(木・祝) 13:00～16:30

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA(集合)
定員各20名(小学1年生以上対象・要予約・定員
になり次第締切・連続参加可) ¥300円

**トークショー
「フィギュアは私たちにとって何なのか？」**

野村雅一(文化人類学者/国立民族学博物館名誉教授)

2011年10月16日(日) 14:00～15:30

野間清六郎(NO-MAお向かい)
定員40名(要予約・定員になり次第締切) ¥無料

**ギャラリートーク
「夕暮れNO-MA de ギャラリートーク」**

当日は、20:00まで特別開館！夜になるとガラリと変化する展示空間の中で本展ディレクターはたよしこによるギャラリートークを開催します。

2011年11月5日(土) 18:30～19:30

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
定員20名(要予約・定員になり次第締切)
¥無料(企画展の観覧料は必要です)

NO-MA 今後の展覧会情報

NO-MAの場所や休館日は、下段をご覧ください。

関戸格 個展「第2回地下マンガ展」(貸館)

2011年11月17日(土)～27日(日)

① 10:00～17:00 ※最終日は15時まで ¥無料

**第8回滋賀県施設合同企画展
「…ing 障害のある人の進行形」**

2011年12月3日(土)～2012年1月11日(水)

年末年始(12/29～1/6)休館
¥大人200円 高大生150円 中学生以下無料

**(仮称) 日韓合同企画展
“Art Brut in Japan and Korea”**

2012年1月21日(土)～3月13日(日)

※全てのご予約・お問い合わせはボーダレス・アートミュージアムNO-MA(下記)まで

【編集長はつぶやく】

はたよしこ
ボーダレス・アートミュージアムNO-MA アートディレクター

私は絵や絵本を描いていたころ、他人の作品はかなり気になるので、いつも様々な展覧会や本をチェックしていました。「私の画風をもっと見たい」と思っています。それを実現するには、かなり多くの他の人の作品を見ておく必要があります。そういう比較の上で、「新しい表現」というものが立ち立つわけですから。彼らは他人の絵なんか見ていない。自分の絵が一番いいと、なんの比較も無しに断定できる。確かに展覧会場でも、みんな自分の絵の前にばかり立っている。例えば、富塙純光さん(すずかけ絵画クラブ)は、仕事では他人の絵なんか見ていません。自分の絵だけをじっくり見て、アンケート用紙には毎日「私の絵がいちばん良かった」と書いて帰っていた。木村茜さん(パンパンのアトリエ)は、自分の作品の前で自分の絵の線をずっと指でトレースし続けていた。自分のために、自分を存在させるために表現をすること。こんなにシングルで大切なことが、NO-MAに来ると晴れ渡るように見えて来る。いつまでも、そんなミュージアムでありたいのです。

**ボーダレス・アートミュージアム
NO-MA**

滋賀県近江八幡市永原町上16
TEL/FAX 0748-36-5018
(電話受付は10:00～17:30)

休館日:月曜日
(月曜が祝祭日の場合は翌日休館)

<http://www.no-ma.jp>

アール・ブリュットを巡るトークシリーズ

アール・ブリュットを美術、教育、医療、コミュニケーション、スピリチュアリティーなど、様々な価値観・視点で編み上げる全8回の年間トークシリーズ。参加費無料(要予約・定員になり次第締切)。

Vol.3 2011年9月24日(土) 14:30～16:30

**「アール・ブリュットを訪ね歩く
ボーダーを超える実践的取り組み」**

ゲスト:はたよしこ(ボーダレス・アートミュージアムNO-MAアートディレクター)

聞き手:保坂健二朗(東京国立近代美術館 研究員)

※聞き手は以下の回とも保坂氏

ヴォーリズ平和礼拝堂(滋賀県近江八幡市市井町177 近江兄弟社学園本館5階)

Vol.4 2011年10月1日(土) 14:00～16:00

「コミュニケーションの回路としてのアール・ブリュット」

ゲスト:細馬宏通(滋賀県立大学教授)

滋賀県立大学 大学サテライト・プラザ彦根
(滋賀県彦根市大東町2-28 アル・プラザ彦根6階)

Vol.5 2011年11月19日(土) 15:30～17:30

「芸術人類学からみたアール・ブリュットの現在」

ゲスト:中沢新一(人類学者/明治大学野生の科学研究所 所長)

明治大学 野生の科学研究所(東京都内)

Vol.6 2011年11月26日(土) 14:30～16:30

**「アール・ブリュットとの出会い
そしてその可能性について」**

ゲスト:田口ランディ(作家)

ヴォーリズ平和礼拝堂(滋賀県近江八幡市市井町177 近江兄弟社学園本館5階)

Vol.7 2012年1月28日(土) 14:30～16:30

**「医療・福祉を地域に開く
アートプロジェクトとアール・ブリュット」**

ゲスト:高橋伸行(やさしい美術プロジェクトディレクター/名古屋造形大学准教授)

滋賀県立近江学園(滋賀県湖南市東寺4丁目1-1)

Vol.8 2012年2月18日(土) 14:30～16:30

「美術コレクターからみたアール・ブリュットの魅力」

ゲスト:田中恒子(美術コレクター/住居学者/大阪教育大学名誉教授)

マルチメディアセンター情報会議室(滋賀県近江八幡市出町645-4)

